

オスマン朝におけるイブン・アラビー学派の思想展開

—アブドゥルガニー・ナーブルスィーを中心として—

平成 24 年入学
派遣先国：ヨルダン王国
山本 直輝

キーワード：イブン・アラビー学派、タリーカ、イスラーム主義

対象とする問題の概要

筆者は 13 世紀アンダルスに生まれたイスラームの思想家イブン・アラビー (d. 638/1240) の提唱した「存在一性論」という神秘哲学と、その思想を奉ずる学者サークルであるイブン・アラビー学派の研究を行っている。「存在一性論」とは万物は全て絶対他者である唯一存在アッラーの「現れ」の結果であると信じるイスラームの神秘思想であり、東はマグレブから西はインドネシアまでイスラーム世界の学者達に支持され今日まで受け継がれている。イスラームの啓典クルアーンは神を畏れ目に見えぬものを信じる者たちへの導きであると信じられている。そしてその目に見えぬイスラームの神は、実は私たちの首に通る血管おりも近い場所で私たちに寄り添っていると言われている。私たちの周りに目に見える形で存在するあらゆるものに、目に見えないかたちで存在するアッラーの自己顕現を見出すイブン・アラビー学派の思想はまさにイスラームの精髓を守り伝える思想潮流のひとつであると言える。

研究目的

筆者はイブン・アラビー学派の思想史の中で、特に 18 世紀のオスマン朝下シリアに生きたアブドゥルガニー・ナーブルスィー (d. 1143/1731) の思想に焦点を定めて研究を行っている。オスマン朝研究は、歴史研究については多くの蓄積があるものの思想研究については未開拓の部分が多い。特にオスマン朝期のイブン・アラビー学派については、思想的発展はほとんどなかったと十分な検討も無いまま言われていたこともあった。またイスラームの神秘主義教団であるナクシュバンディー教団の思想的側面についてもオスマン朝期のものについてはなかなか研究が進んでいないのが現状である。ナーブルスィーについては、彼の書いた夢解釈の本は現代イスラーム世界でも古典的ベストセラーとして多くの人々に親しまれているが、彼のイブン・アラビー学派、ナクシュバンディー教団の導師としての研究は近年やっと始まったばかりと言ってもよい。筆者はナーブルスィーが、彼自身が霊的な父とまで敬愛するイブン・アラビーの思想をどのように受容し継承したのか、またナクシュバンディー教団の思想との関連性について研究し、オスマン朝期イブン・アラビー学派研究に寄与したいと考えている。

フィールドワークから得られた知見について

フィールドワークでは主に資料収集と一次資料の分析力向上のためにアラビア語研修、また現地のタリーカをいくつか訪れ、導師や教団員にインタビューを行った。

筆者はイブン・アラビー学派の思想的側面について主に研究を行っているが、現代イスラーム世界のイスラーム復興運動とイブン・アラビー学派を奉ずるウラマーたちとの関わりについても主体的な関心

をもっている。筆者はヨルダン滞在の多くの期間をトルコのナクシュバンディー教団の留学生たちと一緒に過ごした。彼らはトルコにおけるイスラーム学の再興のために、ヨルダンでシャーズィリーヤ教団が経営する学校でアラビア語とイスラーム諸学の勉強をしていた。定期的に行われていたヨルダン人の導師の説教の話題は多岐にわたり、イブン・アラビーの教説を語る時もあれば、トルコのエルドアン政権を助けることがいかにアラブ世界のイスラーム主義運動にとって重要なことかについても熱心に語ることもあった。



ヨルダンのタリーカ（シャーズィリーヤ教団）の導師を囲み勉強会を行うトルコ人の学生たち

彼らの中では神秘思想と政治は決して乖離した問題ではなく、全てが有機的につながりあっているのである。このようなイブン・アラビー学派の人的ネットワークと思想のつながりを文献学とフィールドワークという二つのディシプリンを駆使し明らかにすることの必要性を筆者は今回の留学で学ぶことができた。

今後の展開・反省点

今回のヨルダンでの資料収集で集めた一次資料を用いナールスィーの思想解析を引き続き行っていきたい。また今回のフィールドワークではイブン・アラビー学派とも関わりの深いトルコ、ヨルダンのタリーカが一つの国に囚われず極めてグローバルに活動していることが分かった。これは現代の国民国家の中やアラブ世界、トルコ世界という区別なく、かつて存在していたオスマン朝の知的ネットワークが脈々と受け継がれていることの証左ではないかと考えている。このようなグローバルに展開するイスラーム復興運動とその重要なアクターであるタリーカを総合的に理解するために、まずは歴史的にイブン・アラビーの思想がスーフィー達の間でどのように発展していったのかを探りたい。そのために18世紀のイブン・アラビー学派の碩学でありナクシュバンディー教団、カーディリー教団の導師でありトルコのメヴレヴィー教団にも精通していたナールスィーの思想を明らかにすることから始めていきたい。



ヨルダンのタリーカの修行場にて友人と



モスクにたたずむナクシュバンディー教団員の老人



ワーディールーム砂漠にて

Mystical Thought of Ibn ‘Arabī in the Time of Ottoman Empire: Focusing on ‘Abd al-Ghanī al-Nābulusī

2013

Kingdom of Jordan

Naoki Qayyim Yamamoto

School of Ibn ‘Arabi, Islamic Movement, Ṭarīqa

● Research Background

My research concern is an Islamic mystical thought called “Oneness of Being” which is invented by Ibn ‘Arabi (d. 1240). Ibn ‘Arabi was born in the 13th century in Andalus. The school of Ibn ‘Arabī is an intellectual group following the thought of Ibn ‘Arabī. Followers of this school believe that all creature have come from one absolute being, which is Allah. It is believed that the holy book of Islam - the Quran is a guide for those who fears of Allah and believe the unseen. Followers of Ibn ‘Arabī explain that visible being are signs of the unseen God, and a mean to lead us to the core of Islamic belief.

● Research Purpose and Aim

My research will mainly focus on the thought of ‘Abd al-Ghanī al-Nābulusī, the Syrian visionary of Ottoman Damascus. Particularly on how followers of Ibn ‘Arabi interpreted the notion of Naqshbandi, a mystics group of Islam, in the Ottoman empire. Discussions on Ibn ‘Arabī’s school worldwide often limit its focus on scholars in the early days. This limitation draws Followers of Ibn ‘Arabī in the time of Ottoman Empire further from the contemporary religious studies. Studies of Naqshbandi is also facing the similar challenge.

● Results and Achievements by Fieldwork

I learned the inevitability of conducting research in the School of Ibn ‘Arabī and Ṭarīqa on a global scale as area studies. I collected Islamic classical books in order to meet the need for primary sources for my research. Spent most of the days in Jordan with Turkish scholars who belong to Naqshbandi order, I tried to comprehend the ways of Islamic knowledge revival and the rule of Islamic law in Turkey. Turkish Naqshbandi order has close relationship with Shadhili order in Jordan. They keep their global network even from behind bars of territorial nation state.

● Implications and Impacts on Future Research

I am confident that this research can give global impacts for future research as Ṭariqa moves beyond the territorial nation states. In their minds, there are no border between the Arabs, Turkey, and other Islamic nations. In addition to this, it also proves that there is still an intellectual network of Ottoman Empire living within the members of Ṭarīqa.